

道

みちもり

守

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.7 秋号



巻頭随想

ブレーメンから糸島へ。

人生の一本道 フォルカー・レニッケ

特集

ギネスを突破! 14万人がゴミ清掃
道守の夏 各地で多彩に 道の日&道路ふれあい月間

道守会議の輪

道守活動、シーニックバイウェイ
九州各地で盛んに議論

[街道を行く]

唐津街道の今

道守九州会議
設立趣旨



古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起し、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在。子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろうか。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音；心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。

私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組み人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりだした。「道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに」。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渇きを潤す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、一歩踏み出そう。

- 1 巻頭随想「ブレーメンから糸島へ。人生の一本道」
フォルカー・レニック
- 2 特集 ギネスを突破！14万人がゴミ清掃
道守の夏 各地で多彩に 道の日&道路ふれあい月間
- 5 「みちづくしin大分」道守九州会議交流会2005開催
- 6 道守会議の輪……道守活動、シーニックバイウェイ
九州各地で盛んに議論
- 8 わたしの好きな道
さるく坂道「長崎オランダ坂」
グラブスカイロードは元「地獄坂」……阿野史子
- 9 「私たちの道守活動」紹介
- 12 土木遺産……郡築三番町樋門
- 13 街道を行く……「唐津街道」
- 14 海外道事情 米国
市民の道 走る「ボストン・マラソン」支える行政、警察
- 15 ご存知ですか 渋滞解消向け、3カ年で156カ所を優先整備
- 16 道守たちのトピックス／人物伝
- 17 道守九州会議会員募集中／お知らせ

CONTENTS



表紙画:久富 正美
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「玉架会」会員。
裏表紙写真:長 吉秀
大分県豊後大野市在住。「とるば」第1回フォトコンテスト 優秀賞作品

日本に来て29年、糸島に住んで10年になります。わが家から眺める加布里湾の夕日の美しさ！何度眺めても感動します。

毎年大晦日、海岸で沈む夕日を送り、元旦は自宅の窓から可也山に昇る初日を迎えます。真っ赤に輝く太陽は、美しさを超えて、自然の創世や永遠性の感動を伝え、生きている素晴らしさがジーンと湧き上がってくる、何だか、ここから次の世界へ飛び立つことができそうな、そんな不思議な気持ちで胸が一杯になります。

素晴らしい自然と友人に囲まれて、充実した人生を過ごすように取り計らってくれた神様に心から感謝しています。私が生まれる前に、きっと神様が決められておられたのでしょうか。

ドイツのブレーメンに生まれ、イタリア、イスラエル、スイス、デンマークといういろいろな国で指揮者、音楽監督を務めてきました。スイスのオペラ劇場で指揮者をしていたとき、有名なホロスコープの先生から「君は世界中の国々で活躍する運命」と予言され、別の先生は「君は800年前、太平洋を駆け回っていた海賊の生まれ変わり。いつも人々を指揮し引つ張って行く運命」といわれました。

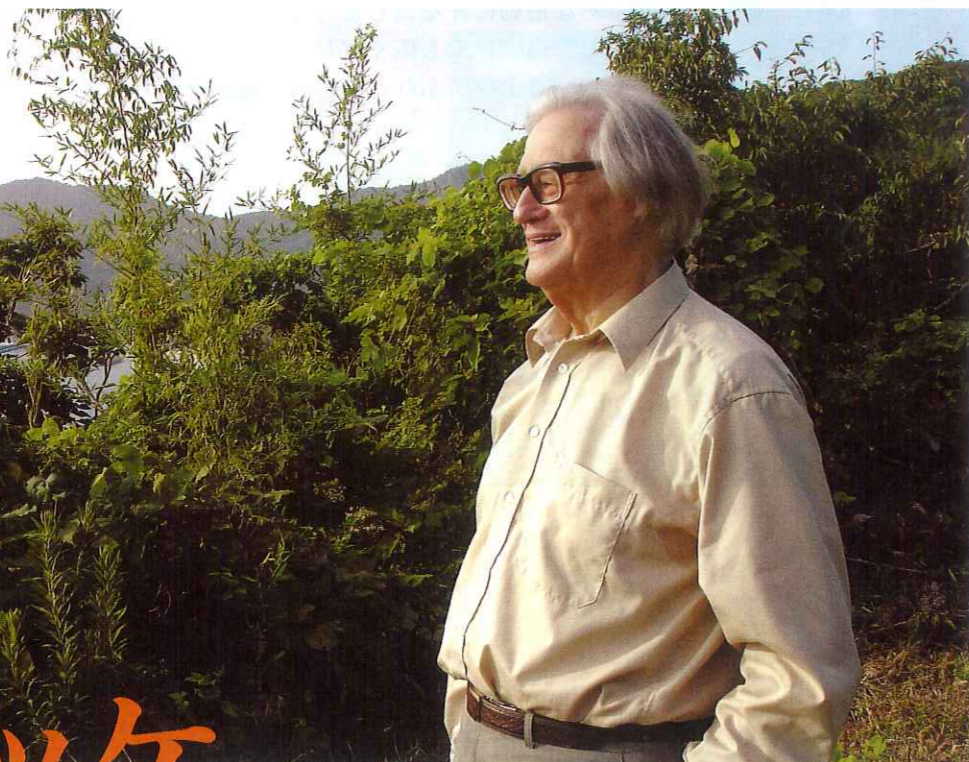
ブレーメンから糸島に続く長い道のり、「人生」は道ですね。

6歳の頃から音楽を志しました。第二次世界大戦中、一時疎開をしましたが、戻ったブレーメンは焼け野原。童話「ブレーメンの音楽隊」で知られる町を歩き回ってピアノを探し弾かせてもらいました。終戦直前、身長180cmの私に

ブレーメンから糸島へ。人生の一本道

巻頭随想

フォルカー！レニック



Volker Renicke (指揮者)

SS(ナチス親衛隊)入隊の指示が来ました。兄二人はすでにロシア戦線に駆り出されています。私が「音楽を続けたい」と断ると親にまで罵声飛ばしました。

音楽への情熱が何度も私の命を救い、人生を切り開いてくれた、と信じています。私の音楽についての考えを変えてしまうほど大きな影響を受けたイタリア、イスラエルのキブツでの奉仕活動、妻の玲(西内玲さん)声楽家、平成音楽大学客員教授 と出会ったスイス時代。そして日本へ、糸島へ。

美しい糸島の海岸道路で草取りをしたり、石ころを埋めたりしている人々をよく見かけます。自分たちの町や道を自分たちできれいにし、守ることは素晴らしいことですね。ヨーロッパは自然環境を守ることに敏感で、タバコを吸わない、海にゴミを捨てない、ドイツでは自分の土地の樹木も勝手に切ることはできません。

人生という道も、糸島の道も、その美しさや感動は人々の手で守られ、支えられている。ブレーメンから糸島へ、そして糸島から世界へ、一本の道が私を導いてくれそうです。

プロフィール

ドイツ生まれ。54年シエナ国際指揮者コンクール入賞。欧州で数多くの指揮者、音楽監督を務める。76年九州交響楽団初代常任指揮者に就任。同回の定期公演をはじめ国内で多くの交響楽団の指揮や音楽指導にあたる。98年福岡市文化賞受賞。昨年末は嘉穂劇場「第九」を指揮。今年は新国立劇場で「ドン・ジョバンニ」を上演。



ギネスを突破! 14万人がゴミ清掃

8月7日 大分市
道守の夏 各地で多彩に
道の日&道路ふれあい月間
こども隊...特製カレー...バスツアー...シンポジウム...
パネル展...FMトーク...橋に感謝...フリーマーケット...

8月は「道路ふれあい月間」、8月10日は「道の日」。道路の大切さを認識し、道路に対するいたわりや愛護の心を高めてもらおうと、毎年さまざまな催しや活動が行われています。今年、道守九州会議は行政と連携。467の団体・個人、約2万7千人（7月20日現在）の道守たちが、九州各県の道を舞台にイベントや道路清掃など多彩な活動に汗を流しました。また各地でパネル展を開催し、道守活動も広くアピール。各県の道守会議から届いた、郷土色あふれる熱い取り組みを紹介します。



道守九州会議 道の日シンポジウム



道守の夏 各地で多彩に

県境2橋の50歳を祝賀 「橋フェスタin諸富橋・大川橋」も



道守佐賀会議 渋谷里美代表世話人の挨拶

佐賀県と福岡県をつなぐ諸富橋と大川橋は今年で開通50周年。これを記念して、道守佐賀・ふくおかの両会議、道守九州会議、佐賀・福岡の地元行政機関らが連携し、8月20日に「橋フェスタin諸富橋・大川橋」を開催しました。企画会議は5月からスタート。成功へ向けて日々夜遅くまで意見を交換し、地元の方々の協力も得ることができました。当日は200人を超す参加者が会場を埋め尽くし、一同ホッと胸をなでおろしたものです。地元中学生によるマーチングや女性たちの祝賀太鼓によるオープニングでお祭り気分が高まる中、シンポジウムでは子どもと大人が一緒に「街や橋や道」について語り合う場面も。橋の50周年にちなんだ「ナンバ150コンテスト」や「3橋めぐり」も盛り上がりしました。



子どもと大人とのシンポジウム風景

天神でFM出演、柳川で掘割沿い清掃 「名島橋サクスフェア」も



道路の便利さを訴えるパフォーマンス

福岡市では、恒例の「名島橋サクスフェア2005」に、地元で道路清掃や花壇作りを行う道守たちが参加しました。また8月6日に天神の中心地・警固公園周辺で行われた「道の日フェスタ2005」の会場の一画では、道守パネル展を実施。家族連れの方やふと立ち寄ったという若者などが興味を示していました。同フェスタをはさむ7月



県内各地で行われた道守パネル展

28日から8月10日の平日には、道守ふくおか会議の道守10人が「道守トークコーナー」と題して天神FMヘラジコ出演。リスナーや天神を歩き交う人々へ、それぞれの活動内容や道守活動への思いを語りました。また柳川市では8月3日、本年度初の柳川道守活動として川下りコース、水辺の散歩道、西鉄柳川駅周辺の清掃活動を実施。住民1500人が、市内26カ所で一斉に汗を流しました。

道守ふくおか会議 発

官民80人が3コースで道の日清掃と点検 歴史の道「バスツアー」も好評

8月10日の「道の日」に道路清掃と点検を兼ねて、行政や道守など約80人が3つのコースに分かれ長崎市内の道を巡回しました。国道34号の歩道を中心に空き缶やゴミを拾い、側溝のふたの点検や通行の支障となる障害物がないかをチェック。商店街では道守パネル展を実施し、歩きやすく、親しみやすい道への想いを新たにしました。

また、道路の大切さを理解してもらうために、長崎市や大村市、小浜町など各地で小学生を対象にしたバスツアーを実施。それぞれの市や町に息づく郷土の道や橋などを見学しました。また、昨年好評だった「長崎街道バスツアー」で



長崎市内の歩道を一斉清掃

は、歴史の中で道路がいかなる役目を果たしてきたかを参加者全員で振り返りました。今回の「道路ふれあい月間」への取り組みは、道守活動とともに郷土史にも興味を持つていただく、良いきっかけとなったようです。

「日本一きれいなまちづくり」をスローガンに掲げる大分市が、佐賀関町や野津原町との合併を記念して「全市いっせいごみ拾い大作戦」を実施。8月7日の午前7時から正午にかけて、住民がそれぞれの居住地から集積会場までのゴミを拾うというもの。参加者数の目標はギネス記録でもある7万5千人以上。もちろん、私たち道守大分会議もたくさん道守たちに呼びかけ、張り切って参加。当日は朝早くから、それぞれの活動地域でポリ袋や火バサミを手に清掃。別大国道（一



ごみ拾い大作戦でギネスに挑戦

般国道10号)のうみたまご田ノ浦海浜公園周辺では、132人の道守が海側の歩道を中心に、ゴミを拾って歩きました。気になる参加人数は目標を大きく上回る14万人!予想以上の好結果に、私たちも感激でした。道守大分会議では、この他にも意見交換会や道守パネル展を開催。来たる「みちづくしin大分」の開催に向けて、ますます志気が高まる8月でした。

道守大分会議 発



県庁・市役所・道の駅で道守パネル展



商店街で道守パネル展を実施



道の日県下一斉早朝清掃

8月の1ヶ月間、道守くまもと会議ではユニークなアイデアで道のPRに努めました。なかでも好評だったのは「道の日カレー」の販売。県内の道の駅がそれぞれ味わい豊かなカレーを販売し、カレーを食べながら道について考えてもらう試みです。中には売り切れのお店も出る盛況ぶり。オマケでつけた道に関するミニクイズ本やスタンプラリー

「好評「道守カレー」はクイズ付き
「早朝一日掃除」や「子ども道守隊」も

1も喜んでくれました。8月10日の「道の日」はまさに「道づくし」の一日に。熊本では初めての試みとなる道守による県下一斉清掃で、早朝から100ヶ所以上で道路清掃を開始。新聞やテレビで取り上げられるなど、県内各地から「掃除を通して地域への関心が高まった」との報告が寄せられています。また、「熊本道の絵コンクール」の入賞者や道守たちの子どもたちに呼びかけ、「子ども道守隊」を発足。かわいい道守たちが、これから道守くまもと会議のさまざまなイベントに登場します。



道の日カレーを食べる子どもたち

道守くまもと会議 発

「みちづくしin大分」道守九州会議交流会2005

開催

10月6日(木)

13:00 分科会 (6つのテーマで「道」について話し合います。)

- ① **テーマ：つくる 「一緒につくる道」**
会場：ビーコンプラザ
・民と行政、その役割と「協働」
・協働を支える仕組み
- ② **テーマ：あるく「人の道、暮らしの道」**
会場：竹瓦温泉
・車の道から人の道へ
・街づくりと道の使い方
- ③ **テーマ：たのしむ「楽しみ・活気の公空間復権」**
会場：聴潮閣
・祭り、市、オープンカフェなど多様な楽しみと活気の空間
・文化、歴史を育み継承、活かす空間
- ④ **テーマ：ながめる「美しい道、感動の道」**
会場：おさる館
・文化や風土が香る道・景観
・沿道立地を含有した美しい道・景観づくり
- ⑤ **テーマ：おこす「活力、元気を興す道」**
会場：別府市中央公民館
・美、文化、歴史、賑わいをつなぐ公空間の道と地域の元気
・国際化、グローバル化社会に生き抜く地域への道
- ⑥ **テーマ：そだてる(新しい力)「こどもが主役の道づくり」** 会場：ビーコンプラザ
・児童、学生などからの道への働きかけ
・道守活動を通じた社会学

昨年熊本で開催した第1回に引き続き今秋第2回の道守九州会議交流会「みちづくしin大分」が10月6日(木)・7日(金)の2日間にわたり大分県別府市をメイン会場に開催されます。道は、私たちにこうしてほしい、ああしてほしいと話してくれません。だからこそ、美しい道とは、安全で使いやすい道とは、街を元気にするための道とはなど、「道」をテーマに話をしましょう。

- 15:50 オープニングセレモニー
16:20 記念講演 演題「おおいたん人とおおいたん道」
講師：コピーライター 吉田 寛氏
- 17:10 分科会全体報告会
各分科会の報告を受け「道守」について考えます。
17:50 道守九州会議総会
18:30 交流会
各県の道守など参加者たちの交流をはかります。

10月7日(金)

現地学習会：大分県内6コース
(別府市 湯布院町 日田市 杵築市 臼杵市 竹田市)
選択コースを巡り、「おおいたん」の魅力を発見します。
集合・受付 9:00 ビーコンプラザ
出発 9:00～各現地学習～解散14:00 (予定)
※内容に関しましては変更する場合があります。

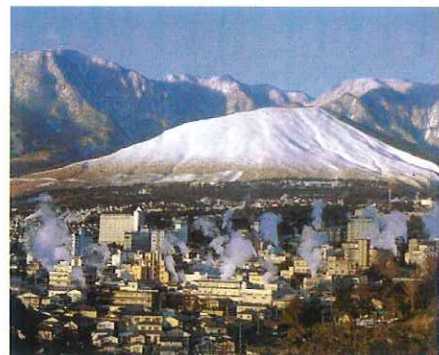


お問い合わせ
お申し込み先
道守九州会議事務局
(社)九州地方計画協会内
TEL 092-473-1057
FAX 092-475-0533

道を走ろう 大分おすすめ「とるぱ」コース

駐車場に車を止めてちょっと一息。絶好の撮影ポイントである「とるぱ」(フットスポット&パーキング)なら、美しい大分の自然もさらに見応え充分。「みちづくしin大分」にご参加の際に、ぜひお立ち寄りください。

別府湯けむり展望台 別府の湯けむり風景のなかでも代表的なのがこの湯けむり展望台からみえる鉄輪温泉の湯けむり。泉都の財産、湯けむり風景を独り占めできる。



田ノ浦ビーチ
田ノ浦ビーチ(田ノ浦公園)は人工海水浴場を生かした総合公園。公園の中央部には人工の離れ小島があるなどユニークな造りとなっている。

とるぱ情報大募集!!
第2回フォトコンテスト開催中!

現在、第2回とるぱフォトコンテストを開催しています。コンテストの対象は平成18年2月28日までに投稿された全ての作品となります。第2回コンテストも豪華賞品を用意していますので、ぜひ応募ください。

詳しくは「とるぱ」ホームページをご覧ください。 <http://www.torupa.com/>

青空の下で道守パネル展



道守がごしま会議の活動をもっと知ってもらい、道守の仲間を増やすことを目的として、8月27日に懇談会を開催しました。会場は国道225号線の照国通り、中央公園側の歩道です。道守たちが育てたフラワーポットが会場を彩る中、パネル展示をはじめ6つの道守やフリーマーケットなど多彩な企画を実施。一般の方々も交えての「道発見ウォーキングツアー」では、

道守がごしま会議 発



道守団体による物産市

道で物産市やフリマ、発見ウォーク

道守みやざき会議が発足して1年と1ヶ月余り。もともと多くの人に道守の活動や声を届けようと、8月10日に「道の日シンポジウム」を開催し、道守をはじめ約500人が参加しました。



パネルディスカッションの様子

道守みやざき会議 発
道守活動の発展へとつながることでしよう。

500人が集う パネル展や写真展も「道の日シンポジウム」

道守みやざき会議が発足して1年と1ヶ月余り。もともと多くの人に道守の活動や声を届けようと、8月10日に「道の日シンポジウム」を開催し、道守をはじめ約500人が参加しました。



福岡市の打ち水大作戦(福岡)



涼を求めて勢よく水をまく浴衣姿の佐賀大生たち(佐賀)

打ち水の輪 福岡・大牟田・佐賀 各地に広がる

日本の夏に涼を呼ぶ打ち水。現代の猛暑にも風情ある知恵を復活させ、地球温暖化防止に役立てようと、道守九州会議と連携するNPO法人グリーンバード福岡、佐賀大学生、大牟田市などが8月に各地で「打ち水大作戦」を行いました。

福岡・警固神社では温泉施設で使用済みの水5000リットルを約200人の参加者が手で巻き、30分後には0.9度の温度低下を確認。佐賀市役所前では約50人の参加者が川の水や風呂の残り水をまいたところ、15分後には1.8度もの温度の低下が確認されました。浴衣姿の女性や子どもたちが集まった各会場はまるでお祭りのような賑わいに。参加者からは「心地よい涼しさを感じます。自宅でも続けたい」、「水遊びみたいで楽しい」、「地域のみなさんとふれあえてよかった」などの声も寄せられました。



浴衣姿で打ち水を呼び掛ける女性たち(福岡)



佐賀市役所前で打ち水をする佐賀大生たち(佐賀)



福岡市役所前の広場で打ち水をする参加者たち(福岡)



道守九州会議 2年目の夏

道守活動、シーニックバイウエイ、九州各地で盛んに議論

九州各地で盛んに議論

各県で道守会議開く 広がる活動の輪 もっとPRを

2年目の夏を迎えた道守九州会議。今年は8月の「道路ふれあい月間」への連携もあり、各県道守会議で道守活動やシーニックバイウエイについて活発な議論が行われました。9月12日に開かれた道守九州会議の第2回運営会議では、各県から多くの活動報告が寄せられ、驚きの声がありました。

2年目スタート！ 宮崎で意見交換会

道守みやざき会議設立からほぼ一年を迎える6月24日、これまでの道守活動報告や平成17年度の活動方針などについての意見交換会が行われました。活動の輪が広がり、会員数は47（4個人・43団体 ※6月24現在）に。2年目もさまざまな道守活動を展開する予定です。



みちづくし開催せまる 大分で活発な意見交換

「みちづくし in 大分」の開催準備に迫られる道守大分会議。8月26日、道守九州会議代表世話人の樗木武・九州大学名誉教授を招いての意見交換会が行われました。道守会員をはじめ、行政関係者などが多数参加。活動してよかったこと、困っていることなどを報告し、熱のこもった議論となりました。



前へ、前へ 道守ふくおか会議

今年3月に九州7県の最後に発足した道守ふくおか会議が、6月27日に本年度第1回運営会議を開催。代表世話人の井上信明福岡大学教授をはじめ13機関団体が集まり、今後の活動方針などについて検討・意見交換を行いました。熱心な議論があふれ、意義深い、楽しい交流の場となりました。



道守の名をもっとPR かごしま会議が意見交流会

道守イベント交流会（8月27日開催）に合わせて行われた道守かごしま会議の意見交換会には、道守、市民、行政から30人が参加。「子どもたちが参加できる道守活動を」「会議を発展させるためには、もっとPRが必要」など、それぞれの立場から多くの意見が出されました。

もっとアピールしたい 道守長崎会議総会

道守長崎会議の第2回総会を8月28日に開催しました。道守長崎会議に加盟する10の活動団体、道守九州会議事務局、行政の関係者ら30名が参加。これまでの活動報告や今後の活動について話し合いました。会議では「活動を続ける中で、歩道のゴミが減ったり、地域の方から声をかけられたりするようになった」「作業中におそろいの帽子や上着を着用し、活動をアピールしたい」「花の苗の提供や、清掃活動の道具貸し出しに助かっている」という意見が寄せられました。また、完成したばかりの道守のほりを前に、参加者から喜びの声が溢れました。



道守のほり「完成！」ぜひ活用ください

「道路清掃時にのほりがあったら安全に道守活動ができる、PRにもなる」「イベント時に、道守が行っていることがわかる」。かねてより道守会員から要望のあった道守九州会議の「のほり」が完成しました。道守九州会議では2種類の「のほり」を100本ずつ計200本作成。各県の道守会議事務局へ20本（各10本）お届けしています。道路清掃などの道守活動時や道守イベント開催時にぜひご活用ください。



橋フェスタin大川橋、諸富橋 (8/20) にて

※道守のほり使用の際は、各県の道守会議事務局または道守九州会議へお問い合わせ・お申し込みください。

シーニックバイウエイ 宮崎で勉強会 第2回九州研究会も

道守みやざき会議の呼びかけで7月26日、「道守みやざき会議シーニックバイウエイ勉強会」が発足。アメリカや北海道の事例や九州での研究状況などの報告、宮崎県内でのシーニックバイウエイの可能性や方向性について意見交換が行われました。勉強会では「地元に住んでいる住民が、まずは満足するような道づくりが必要」「本物をつくるためには、地域住民が形づくらないとならない」という声があり、まずは日南海岸を先行事例とすることで合意。今後、幅広いメンバーで継続的な勉強を予定しています。また待望の第2回「シーニックバイウエイ九州・研究会」が9月26日、福岡市で開催。内容については次号道守通信等でお届けします。



福岡市で寄合談議 美しく楽しい道から地域づくり

道守ふくおか会議などが主体となり9月22日午後、「寄合談議・美しい・楽しい道が作る地域の魅力と元気」が開催され、約100人が参加しました。長崎、大分の事例紹介に続き、寄合談議（討論会）では福岡、北九州、柳川、うきは、唐津から道守活動や地域づくりの団体、行政マンら6名が登壇。シーニックバイウエイの概念をもとに道の使い方、あり方を話し合いました。パネリストからは「民間と行政がいつしよになって良いアイデアを」「道」の応援を増やす努力を続けたい」などの意見が出ました。談議は会場の参加者にもおよび、地域の道から魅力や元気を生むために何が必要かを考える、絶好の機会となりました。





ワクワクする石畳のオランダ坂



さるく坂道「長崎オランダ坂」 グラバースカイロードは元「地獄坂」



♪坂の長崎 石畳と歌われるように長崎は坂が多い町です。私の好きな道はオランダ坂。明治初期に外国人居留地が造られた東山手、南山手へ向かう途中の坂道です。

江戸の鎖国時代、唯一海外に開かれた窓口だった長崎の出島。外国人居留地の区画でした。長崎では西洋人のことをすべて「オランダさん」と呼び、その名残で長崎人にとって外国人居留地の坂はすべて「オランダ坂」だったそうです。今では東山手の活水学院下の切り通しが「オランダ坂」として知られ、多くの観光客が訪れます。

坂道は、住む人にはつらいものがあるけれど、初めての人は「坂の上には何があるのだろう」「上ればどんな光景?」と期待でワクワクする。そんな魅力を秘めています。今に伝わる長崎オランダ坂は石畳で、周囲は煉瓦塀の古い洋館。保存整備が進み、ヨーロッパの町並みを想わせる異国情緒にあふれているので格別です。

私が幼いころのオランダ坂は、今のような風景でも観光名所でもありませんでした。今にも壊れそうな、まるで幽霊屋敷みたいな木造洋館がたくさんあって、ドキドキしながら仲間たちと冒険ごっこをしました。ある時、道に迷って、焦れば焦るほど迷路みたいな所

に入り込んで、とうとう私は泣き出しました。心細かった気持ちは覚えていますが。今も時間があると、私の足は自然とオランダ坂に向く。思い出や歴史を歩き交わしながら、さるくきます。「さるく」は長崎弁で歩き回ること。最近ではホテルやマンションなどの高層の建物が増え、昔の面影が少なくなったのは残念です。

もう一つ紹介したい新しい坂道がグラバースカイロード。斜面都市・長崎市が平成14年に生活道路として初めて設けた斜行エレベーター道路です。総延長は160m。もちろん無料で、終点はグラバ1邸。観光客にも便利ですが、本来の目的は坂の上居住者の高齢化対策、住環境を少しでも良くしようというバリアフリー坂道の試みです。

かつて通称「地獄坂」と呼ばれた長く急な階段から解放され、買い物や散歩、町まで出掛けるお年寄りたちの元気な笑顔に出会えます。夜景は「百万ドルの価値」があるお薦め坂道です。斜面に張り付いたように建つ長崎の家々の灯りが長崎港の水面に映えます。道は変わるので。道守活動をしながら、その感をいつそう強めています。

グラバースカイロードの頂上からの眺め



阿野 史子
プロフィール

長崎市生まれ。福岡女子大学卒業。現在、長崎市出島町でペンション経営。道守長崎会議代表世話人。道路利用者の立場から道路の調査活動を行う「ルート34ワークショップ実行委員会」委員長、活水女子大学非常勤講師、長崎県美しいまちづくり審議会、長崎市都市計画審議会、同都市景観審議会の各委員。



私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいるスタイルもアイデアもさまざまな活動を紹介いたします。

地域からの報告 福岡編

連携の輪が広がる 道守ふくおか会議 福岡、柳川、豊前など地域の活動も盛ん

道守ふくおか会議(井上信昭代表)は、九州7県の最後の道守県レベル組織として今年3月に設立。早くから道守九州会議に賛同していた柳川道守ネットワーク(山田三代子代表)、名島校区「花の架橋」実行委員会(佐伯毅代表)など6団体が世話人となり、福岡県内で道守活動に取り組み団体と連携の輪を広げています。

道からはじめる地域振興「みちおこし寄合」

「第二回みちおこし寄合」(主催/ NPO 大川未来塾・NPO みちおこし寄合)は、協力/ 全国街道交流会議・道守ふくおか会議)を7月30日に大川市で開催しました。



大川市の榎津・小保地区は、旧肥後街道の宿場町。「肥後街道宿場を歩く」と銘打ち、酔い老舗・酒屋商店、旧吉原家住宅等の町並み巡りを実施しています。今回の寄合には、筑後商工会議所、柳川道守ネットワーク、肥後街道顕彰会、肥前江迎宿場の会などの筑後



今年も元気に！柳川道守活動

柳川道守活動の平成17年度第1回会議が7月7日に開かれました。より良い活動にするために、活動範囲の拡大や効率の良い人員配置等の意見を交換。本年度初の活動として8月3日に市内の清掃活動の実施を決定しました。会議後は、道路に関する理解と関心を深めるため、出席者20名で有明海沿岸道路の工事現場を視察。参加者からは「参加して良かった」「視野が広がった」等の声が聞かれました。「出来る人が」「出来る事から」を合い言葉に、今年も少しずつ活動の輪を広げ、元気に柳川道守活動を続けていきたいと考えています。

※道守ふくおか会議の活動については本誌2ページからの特集にも掲載されています



「道の駅」豊前おこしかけ(福岡)

パンジー2000本 四季の草花が開花中



「道の駅」豊前おこしかけは北九州市から南東へ車で約1時間。豊前市内を縦断する国道10号線と国道10号線椎田道路の交差点にあり、年間100万人の人が訪れます。訪れる人々に心からくつろいでもらい、安全な旅を続けていただきたい。そんな思いから地域の玄関口ともなっている「道の駅」に花壇を設置し、四季の草花で飾ることにしました。まずは市民グループ「豊前市花と緑の会」が育てたパンジー2000本の植栽を実行。ボランティアの参加を呼びかけたところ、市内の和光保育園や知的障害者施設「周防学園」から、約70名の応募者が集まりました。年末に植え付けた苗は年明けにはみごと満開に。目下、花壇の管理は「周防学園」の皆さんが行っており、サルビアやマーガレット、日々草などが続々と開花中。人々の目を楽しませてくれています。(白石 道雄)



唐津土建工業株式会社 (佐賀)

工事現場から地域清掃
わが町・唐津を美しく



玄海灘に面する唐津は虹ノ松原や唐津城など風光明媚な見所が満載。唐津焼や唐津くんちなどの伝統工芸や行事にも恵まれた地方都市です。当社は平成4年より、この自然環境の中で地域に根ざし環境に配慮した活動に取り組んでいます。工事現場周辺での道路河川清掃や道路のクリーン作戦、現場周辺道路の一斉清掃は全社的な年間行事として実施中。地域で開催される環境に関わる活動にも積極的に参加しています。

昨年2月には、「道守九州会議」の本会員へ加入。「道守佐賀会議」の事務局を引き受け、会員団体交流でのボランティア清掃や花植活動と、その活動状況をパネル展で広くPRしました。この活動を続けることで美しいわが町・唐津を次の世代に継承できるもの信じ、活動の意義が市民にも理解され、広まるようにがんばっています。

(前陣 清美)



竹友会 (長崎)

国道34号の清掃から
地域美化の心広がる



がら、年4回の清掃活動を行っています。

私自身、この活動に参加するようになって、煙草のポイ捨てや不法投棄されているゴミのことが日常生活の中でも自然と気に掛かるようになりました。以前は気がつかなかったことだと我ながら驚きました。住民ひとりひとりが自分たちの地域の環境を意識すれば、きっとその町は美しく変わっていくはず。定期的な清掃を通して、ひとりでも多くの方と町づくり、道づくりの想いを共有していけたらうれいと思います。今後も環境美化に関する活動を広げるために、がんばりたいと思っています。

(川原 治美)



生石港町 港友会 (大分)

別大国道で
仲間とウォーキング清掃

私たちは生石近辺に住む15名からなる老人会。新しく完成した別大国道(国道10号)を2週間に1度、ウォーキングしています。平成14年3月のこと、「せつかくい道ができたのに、ゴミだらけじゃないか!」と思い、ウォーキングに合わせてゴミ拾いを始めました。

最初はひどいものでした。両手に持った大きなゴミ袋がすぐに一杯になるほど。でも、私たちが拾っているからか、最近は当初の4分の1くらいにかなり良くなりました。

今、ウォーキングブームです。全国の人達がゴミ袋を持って歩いたら、道は相当きれいになります。歩かなくとも、みんなが自宅前の道のゴミを拾うだけでなく、もつときれいになると思っています。

道守大分会議に入って広がった活動を、今後も充実させたいと思っています。若い人も「道で何かをしたい!」という人はどんどん参加してほしいものです。

(中川 公生)



熊本の道を語る女性の会 (熊本)

子ども道守隊を結成、
花壇づくりに奮闘中

私たちの会は熊本県内で活動する12の女性団体によって誕生しました。女性の視点から道や地域づくりを考え、行政機関への提言や歴史街道の掘り起こし、熊本の見所マップ作りなど、県内に広がるネットワークを生かして様々な活動を行っています。現在は道守くまもと会議の事務局も担当しています。今年8月の「道の日」の行事には道守枠で参加をし、県下一斉掃除を提案。二千人を超える参加者を得ました。子ども道守隊の結成には母親として関わっている会員も多く、今後は元気な子どもたちと一緒に活動内容をより充実させていく予定です。



「みちもり花壇」の設置もそのひとつ。国道にきれいな花壇が増えたら人々の道や町への関心も高まるはず。さやかな呼びかけが地域に広がり、美しいまちづくりへと発展することを会員一同、期待しています。

(中村 幸子)

株式会社宮崎産業開発(宮崎)

先代社長の意志を受け継ぎ
ボランティア25年



当社では毎月第2土曜日「道路愛護デー」と定め、道路清掃作業を実施しています。発起人は先代の社長。会社設立時の昭和55年から地域社会に貢献すること、社員のボランティア精神を養うことを目的にスタートしました。現在の会員は30名、活動はJR宮崎駅前交差点から国道10号デパート前交差点まで約1kmの区間です。両側の歩道を中心とした掃除と、植栽帯・自転車カゴ・噴水池の空き缶・ゴミ回収、放置自転車等の整理整備を続けて、もう25年になります。

毎回、たばこの吸殻やペットボトル等のポイ捨て・放置が多く、通行者ひとりひとりのマナー向上と、公共施設利用者としての美化意識の必要性を強く感じさせられます。これからも、社員家族や子どもたちの参加を呼びかけ、広く市民に喜ばれ、長続きするボランティアとして活動していきます。

(長友 善雄)



花を咲かせ隊 (鹿児島)

国道389号線を
3000本の花街道に

国道389号線は長島く阿久根市間に島民の悲願だった黒之瀬戸大橋が架かり、交通量が増えたためにできたバイパスです。国道の開通により周辺は賑やかになりましたが、道沿いのカンナやサツキの植え込みは所々枯れてしまっていました。「ここは格好の花壇になる」と気づいたのが平成14年。すぐに土木事務所に許可をいただき、協力してもらえそうな方々に案内を出しました。「一緒に花を植えませんか? (追伸、美しいマダムにのみお声かけしています)」。この追伸が良かったのか、隊員が120カ所で活動中です。春にはパンジーやチューリップが開花、夏には三笠中の生徒たちと一緒に植えた3000本の花々が暑さに負けず咲き誇りました。道行く人々からの褒めの言葉が何よりの励みです。



です。

(太田 信子)



＜左＞元小中学校教諭、現在は郷土史講座の講師を務める古川廣和さん。地元の史跡を紹介したスケッチ集も発行。
 ＜右＞二丈町教育委員会文化係の古川秀幸さん。町の史跡、文化財の保存管理等に携わる。

「当時はこの道沿いにきれいな松並木が続いてたはずですよ」。案内人は郷土史に詳しい古川廣和さんと、二丈町教育委員会の職員・古川秀幸さん。「ここから少し先が深江宿です」と指した方向は民家が建ち並ぶ静かな一角だ。
 江戸時代、宿場町として栄えた深江は唐津藩から公領を経て、中津領、対馬領と管轄の藩が移り変わる。街道から少し外れた道沿いには中津領の標柱



唐津街道が通っていた二丈町・深江地区。川の流れ、羅漢の姿、唐津街道だったという細い道に佇む。

中津藩の標柱をはじめ 数多くの史跡が残る宿場町。

唐津街道の今 福岡県・二丈町

たものだ。「火」という漢字を彷彿させる街道の中央地点に「」を打つ意味で建てたようですね。これで火事はぐんと減ったとい



文化9年(1812年)、二丈町松末から福井までの海岸線を中心に描かれた『測量方内圖』。伊能忠敬による筑前国内測量の際に作成された(福岡県立糸島高等学校・郷土博物館 収蔵)

えは今ここに在ることが奇蹟のようだ。このように、深江には興味をそそる史跡が数多い。宿防灯籠もそのひとつ。江戸後期、町で頻発した大火事を防ぐために建てられたものだ。「火」という漢字を彷彿させる街道の中央地点に「」を打つ意味で建てたようですね。これで火事はぐんと減ったとい



大宰府詣での講で造られた宿防灯籠。町の有志16名が寄贈した。

「残るが、これは近くの畑から発見されたもの。「珍しいでしょう」と微笑むおふたり。先端は欠けているものの、管轄領の変遷を思



中津藩の標柱。先端が欠け落ちた姿も今は魅力。

ちようど長崎街道と並行するように、現在の北九州市から玄海灘に沿って筑前博多を經由し、肥前唐津へと続いた唐津街道。かつて宿場町として栄えた二丈町・深江を訪ねた。

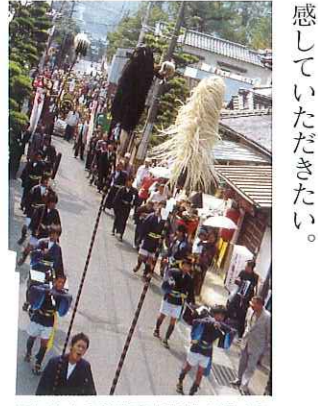


うから、不思議なものです。知恵かひらめきか、先人の発想に深く感心させられた。

宿防灯籠からまっすぐ東へ。深江神社に到着する。文禄2年(1593年)、太閤秀吉は名護屋在陣中に深江を訪れ、この神社で淀君懐妊の知らせを受けた。安産を祈願した秀吉は筑前の小早川隆景に社殿の再建を命じ、鳥居(現・第二鳥居)を寄進させたという。木造の本殿は簡素だがどこか包容力を感じる。鳥居や燈籠に手を伸ばし、古川廣和さんが言う。「若い頃は何とも思わなかったけれど、気づけばこうして記念碑などをさすようになっていた。親父たちと同じことをしているんですね。手の温も



深江神社。本殿左手奥には秀吉の茶室跡も。本殿裏の高台からは名護屋城が見えたという。



毎年多くの観光客が街道を埋め尽くす深江神幸祭。練り歩く一行の姿は大名行列ともよく似ている。

りは郷土への想いそのもの。街道沿いには江戸の頃を偲ばせる屋敷も残っている。先の福岡西方沖地震で破損した部分は現在の住人によって当時に近い状態で修復されていた。町の歴史は住民によって守られているのだ。毎年秋、二丈町ではこの街道を舞台に400年の伝統を持つ深江神幸祭を行う。毛槍や鉄箱を担いだ行列が神輿とともに深江神社を出発し、海の仮の宮を目ざして町を練り歩く。今年の開催は10月16日、街道に感していただきたい。

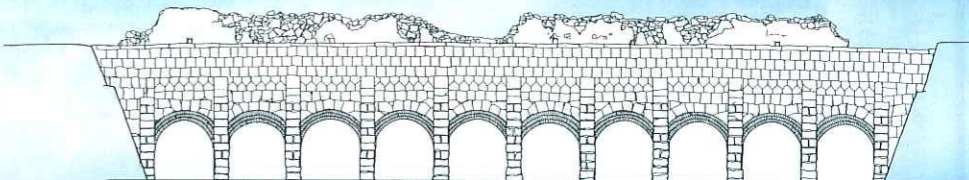


昭和の中頃まで造り酒屋として栄えた屋敷。当時は「丸屋」と呼ばれていた。

人知れず存在する土木遺産。右手には取巻の季節を迎えた田畑がのびやかに広がる熊本県八代市。左手の海岸沿いには工場群。この広い干拓地のどこに樋門があるのだろう。不安になりながら車で郡築三番町とおぼしきエリアの湾岸道路5号線を走り、ハッと気づいた。ちょうど樋門の上を通過していたのだ。均等に弧を描く十連のアーチが美しい。田畑の間の道に降り、ようやく目にした郡築三番町樋門は、農用水路の上に静かに存在していた。建設は明治33年(1900年)。構造は石造りアーチ式十連樋門。幅30.5m、高さ5.5m。現存する明治期の干拓樋門としては最大級の規模だという。西洋建築の面影も見取れる造りにはアーチ部分に赤レンガが、これを囲むように砂岩の切石が積み上げられている。モダンな建造物の登場に当時の人々もさぞかし興奮しただろう。



郡築三番町樋門。西側は招扉の取り替えの際に見た目も現代的になったが、東側はこのように築造当初の姿をほぼ保っている。



八代市文化財調査報告書第二十二集「八代海干拓施設調査報告書」より 八代市教育委員会発行



明治に誕生し、今なお現役。干拓地の歴史を見守る水辺の門。

郡築三番町樋門



「熊本県の特徴ある土木遺産といえば、やっぱり樋門でしょう」。樋門とは、用水流入や内水排除のために堤防を横切って造られた送・排水路のこと。河川や海の水位が高くなった場合に招扉を閉閉し、水の逆流を防ぐ役割を持っている。九州の土木遺産に詳しい熊本大学工学部の山尾敏孝教授に教えていただいて、明治期の樋門が現存する八代市の西部に広がる干拓地・郡築エリアを訪れた。



山尾敏孝教授 熊本大学工学部環境システム工学科

土木構造物の近代化に貢献した土木遺産の調査、評価を行い、保存や活用に関する研究活動にも勤む。11月12日(土)には教授も参加する『土木遺産ツアー』があり、参加者と熊本県内の石橋をめぐる予定。



三番町樋門より約1キロ離れた位置にある二番町樋門。竣工は昭和12年。三番町の樋門と並んで八代平野を代表する、歴史ある構造物。



郡築三番町樋門は築造から百年以上、一度も欠壊していない。木製だった招扉はスチール製のものに取り替えられ、その役割も昭和に入ってから建設された大島樋門のサポートにおさまったが、今でも立派に現役で活躍。当時の設計と技術力の確かさを証明している。「よく見ると時代を経て少しずつ修復を重ねてきたことが分かりますよ」と山尾教授。石の色や種類、そして積み方。わずかな違いから日本の土木技術の推移も見えてくる。「だから簡単に壊してはいけない。かつての技術やそこに込められた考えを知っていて壊すか、知らずに壊すかでは大きな違いがあります」。年に一回、山尾教授は「土木の日実行委員会」が実施する「土木遺産ツアー」に協力。案内役を担当し、子どもからお年よりまで幅広い参加者に地元に残る様々な土木構造物の価値を伝えていく。「構造物の歴史とは、人間そのものの歴史。背景に息づくドラマを踏まえながら町や地域全体の魅力としてとらえることが大事です」。干拓地を見守り続ける樋門を前にして、教授の言葉を改めて胸に刻んだ。

土木構造物の歴史は人の歴史。

ご存知
ですか？

渋滞対策プログラムを策定

渋滞解消へ向け、 3カ年で156カ所を優先整備



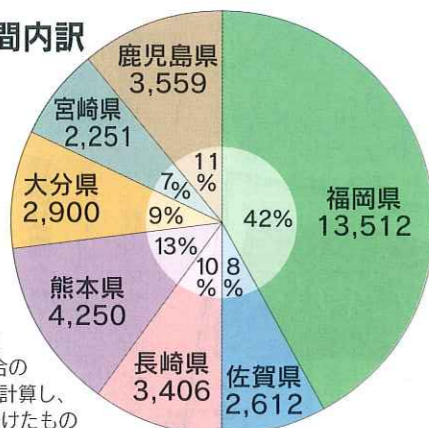
九州管内の渋滞対策を有効かつ効果的に実施していくために、九州各県の渋滞対策協議会において策定された「渋滞対策プログラム」を、国土交通省九州地方整備局と九州各県・政令市・日本道路公団・福岡北九州高速道路公社からなる、九州幹線道路協議会渋滞対策専門部会にて、九州版としてとりまとめました。

昨年度末までに125カ所の渋滞を解消

1998年度からの第3次渋滞対策プログラム（前回のプログラム）により、九州では整備目標243カ所のうち、125カ所で渋滞が解消されました。しかし、依然として朝夕のピーク時の渋滞は都市圏を中心に慢性化。昨年実施した「九州の道路に関するアンケート」でも、回答者の4人に1人が交通渋滞に不満を持っており、さらなる渋滞対策が求められています。

九州の損失時間内訳

(県別)
単位：万人時間/年
(H16年データ)



※渋滞損失時間 (万人時間/年) 現況と渋滞がない場合の所要時間の差 (損失時間) を計算し、交通量と平均乗車人数をかけたもの

今後3カ年で156カ所を重点整備

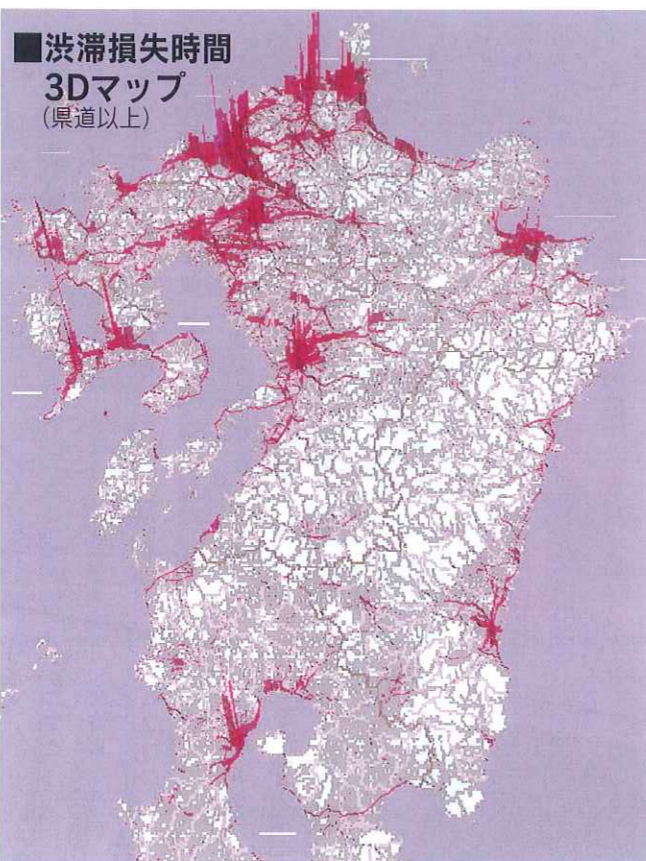
今回の渋滞対策プログラムでは、前回のプログラムで渋滞解消に至っていない118カ所と新規136カ所の合計254カ所を対象として抽出。うち156カ所を、2005年度から3カ年間の重点整備カ所として設定しています。各県別の内訳は、福岡63カ所、佐賀15カ所、長崎15カ所、熊本22カ所、大分8カ所、宮崎13カ所、鹿児島20カ所。右折レーンの設置やバイパス建設、信号機の時間調整などを優先的に進め、渋滞改善をめざします。

● 道路についてのご意見・ご提案・ご相談を受け付けています ●

九州地方整備局「道の相談室」 ☎0120-106-497 FAX 092-476-3514
ドロー ヨクナレ [24時間毎日受付]

● E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp ● HP http://www.qsr.mlit.go.jp

渋滞損失時間 3Dマップ (県道以上)



ガードレール付着金属片は、 ほぼ取り除くことができました。

マスコミ等で取り上げられたガードレールの金属片の付着原因のほとんどは、クルマの接触によるものと判明しました。皆さまから寄せられた多くの情報をもとに、短期間のうちに、ほぼ全てを取り除くことができました。ご協力ありがとうございました。



市民の道 走る「ボストン・マラソン」 支える行政、警察

米 国



何万人もの市民ランナーが都心の目抜き通りを走り抜ける。まさに「道路」が市民のものになる日。



安立 清史 氏

プロフィール

九州大学大学院人間環境学研究院助教授。専門は福祉社会学およびボランティア・NPO論。ポストンにて在外研究中。

ボストンの春の風物詩がボストン・マラソン。今年で109回目になる世界でもっとも歴史ある市民マラソン大会だ。これを例に、道と民間非営利組織(NPO)とを考えてみたい。ボストン・マラソンは主催がNPO、運営がボランティア。そして市民が盛大に参加する。世界の一流選手が競い合うレースとしてTV中継されるのは全体のほんの一部だ。朝から晩までかけて2万人もの市民が、ボストンの目抜き通りを堂々と走り、それを沿道を見守る「市民による市民のためのマラソン」であることがこの大会のエッセンスである。

2万人も走れば、最後の人たちは夜になってようやくゴールすることになる。その間、ボストン一番の繁華街の道は、朝から晩まですべて遮断されて市民のためのマラソン・ロードになる。この凄さは、ただことではない。福岡マラソンも福岡の中心街を駆け抜けるが、道路が遮断されるのは、ほんの数十分に過ぎない。ボストン・マラソンが想像を絶したスケールであることが分かるだろう。

NPOが主催する市民参加のイベントでも最も重要なのは行政や警察の協力である。今回、私がつとも感銘を受けたのは、警察の全面協力ぶりであった。日本では道路はクルマのためにあるかのようにあり、渋滞をさげ安全や管理という側面ばかりが強調されて、市民が道を自由に使うことがおそろしく制限されてしまふ。これは考えてみればおかしなことだ。

アメリカではNPOによる市民のための活動に、警察や行政が全面協力して奇跡のような大イベントを成功させている。市民のためのサービスという警察や行政の本来のあり方がきちんとここにあることに感動する。マラソンを走る市民と沿道から歓声を上げて応援する市民。「道」を本当に自分たちのものとしている幸福な姿に、われわれも大きく学ぶものがあるのではないか。



この巨大な市民イベントを支えるのが警察と行政。市民のためのサービス機関として全面協力。



主催はNPO、運営はボランティア。しかもシステムが確立されていて、じつにスムーズな運営だ。驚いた。

佐賀県で交差点の広告禁止へ 佐賀県が主要交差点付近の広告設置を全面的に禁止する方針を固めた。景観美化とドライバーの脇見運転による交通事故防止を図るのが狙い。同県は主要交差点の広告禁止は全国的にも珍しい、としている。11月の県議会で「屋外広告物条例」の改正が認められれば、来年度から実施する。

人吉球磨で児童が1日道路巡視員 熊本県球磨郡水上村の岩野小5、6年生13人が8月4日、「二日道路巡視員」となった。昨年の台風16、18号で崩落した国道445号の災害復旧現場など、人吉球磨地方の4カ所の道路工事現場を見学。「すごい迫力。工事の人たちが頑張って道路を守ってくれていることが分かった」と児童。

武家屋敷跡の土塀を復元 大分県中津市の金谷地区で、武家屋敷跡の土塀復元工事が始まった。市から委託を受けたNPO法人「中津まちなみ会」の会員20人が、7月中旬に土ブロック150個を製作。約1カ月間かけて乾燥した後、数回に分けて積み、10月には高さ約2mの屋根付き土塀が完成する。**反射シールで転倒事故を防止** 道路の段差による夜間歩行者の転倒事故を防ぐと、反射シールで注意を促す取り組みが、福岡市や久留米市で試験的に

進められている。シールはゴム製で、辺約10センチの正三角形。夜は少しの光でも反射して黄色に輝く。元々は駐車場の目印用。「路面の段差を知らせるサインにも使える」と設置した。**長崎街道の起点・常盤橋を清掃** 8月10日、小倉北区の「常盤橋・橋洗い」に住民ら約30人が汗を流した。常盤橋は紫川下流唯一の木製橋で、長崎街道の起点。小倉都心部クリーンキャンペーンの一環として「常盤橋・橋洗い実行委員会」が2年前から開始。「小倉のシンボルとして大切に、後世に伝えていきたい」と橋本和夫実行委員長。

久留米市内18カ所を「名所」に認定 久留米市は「市民とつくる花と緑の名所」に、新たに公園や道路沿いの花壇など18カ所を認定した。2003年度から景観美化を目的に始めたもので、現在53カ所。手入れている住民団体に認定書を手渡した江藤守国市長は「寒い中も暑い中も一生懸命世話をしていたら、ありがた。さらに充実させたい」と話していた。

魚市場協会の感謝の気持ち込め清掃 松浦魚市場協会（長崎県松浦市）の卸や運送、仲買業者ら約30人が7月19日、前浜海岸（同市調川町）や道路を約1時間かけて清掃。毎年「海の日」近くの休漁の日に、地元や海への感謝の気持ちを込めて実施している。「海や地域がきれいになるよう、活動を続けたい」。

約35人が、舞鶴・城内・松浦の三橋の清掃をした。工事受注の恩返しと、社長の氏名に「橋」と「道」が付くことから思い立ち、今年で11年目。「観光客や帰省客に美しい唐津を見てもらいたい」と橋本道徳社長。

自然公園クリーン作戦に180人参加 8月1日、大分県九重町田野の長者原で、登山道や道路などの「自然

（橋）の日」。唐津市神田の建設会社「橋本建設」の社員ら

公園クリーン作戦」が行われた。自然保護団体「九重の自然を守る会」や県、町、観光協会、事業所など16団体から約180人が参加。ごみ約220キロが集まった。登山口では地元婦人会員らが「ごみは持ち帰ってください」とごみ袋を配り呼びかけた。

人物伝
「ほとめき」と「道守」で、文化街のにぎわいを取り戻す
 岩崎フミ子さん（文化街さくら会会長 福岡県久留米市）
 「久留米には、ほとめきという言葉があります。もてなしの意味です。歓楽街の役割は、お客さまにお酒を振る舞うだけではありません。」
 大分県日田市出身。福岡県久留米市で結婚し、夫の母が1946年から経営していたクラブ「花鳥」を継いだ。歓楽街「文化街」の活性化を目指す市民団体「文化街さくら会」の会長を務める。数年前から悪質な客引きや違法駐車が増え、文化街から客足が遠のいた。「地元が立ち上がらなくてはならない」と昨年5月、スナックやクラブの経営者たちで「さくら会」を立ち上げた。この一年で花を植え道路を清掃。市に働きかけて街路灯を設置。通りに愛称も付けた。また花見会や観月会などのイベントで、地域住民と「にぎわいを取り戻せるか。多くのどうしたらにぎわいを取り戻せるか。文化街が同じ悩みを抱えているという。文化街はほとめきと、道守の心で、少しずつ、かつての姿を取り戻し始めている。」



あなたも九州の道を考え、守ってみませんか？

道守九州会議 会員募集中！

道守九州会議では、会員の募集（会費なし）を行っております。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせ・お申し込みください。

※賛助会員（会費あり）の募集も行っています。詳しくはお問い合わせください。

道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。

広げよう道守の輪

九州各地の多くの方々を道守を舞台に活動を日々繰り広げています。地道でひたむきな活動ですが、地域の仲間、学校の友達、会社の同僚、市民団体、個人の活動などが、地域に共感と感動を与えています。



地域の道を「おかげさま」の心で美しくそうじの会事務局（佐賀県多久市）

道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング（監視・通報）、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など



道も掘削も町も、生徒と育てる美化活動 福岡県立伝習館高等学校（福岡県柳川市）



人を育て、道と地域を守るあかつばちファイトくらぶ（宮崎県北川町）

入会申し込み 問い合わせ

(社)九州地方計画協会内 「道守九州会議」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
 TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
 (ホームページも参照ください。申し込みも可能です)

■道守HP <http://www.michimori.com>
 ■e-mail michimori@michimori.com

「道守九州会議」からのお知らせ

おすすめ「とるは」コース新設
 とるはホームページリニューアル！



道守九州会議では、国土交通省九州地方整備局と連携し「とるは」(フオトスポット&パーク)情報収集しています。この度、寄せられたとるは情報をもとに九州各県の魅力スポットを巡る「おすすめとるは」コースのページを新設しました。リニューアルしたとるはホームページ、とるは携帯サイトをご参照ください。
<http://www.torupa.com/>

最新情報は道守ホームページで

道守活動や道守に関するイベントなどの情報をメールやCDなどのデジタルデータでお寄せいただくと、道守ホームページや広報誌「道守通信」でかたんにご紹介できます。応募・投稿フォームは道守ホームページにあります。ぜひ活用ください。

道守九州会議交流会2005 「みちづくしin大分」開催

10月6日(木) 7日(金)の2日間、道守九州会議の交流会「みちづくしin大分」を大分県別府市で開催します。道に興味を持つ人々をお誘いのうえ、ふるつてご参加ください。詳しくは本誌5ページの記事を参照ください。

「道守通信」 編集後記

今年の8月の道路愛護月間は、熊本は燃えました。夏は暑いものですが、さらに熊本の夏は独特の湿度で過酷な季節。「道の日」関連のイベントを道守参加という形で行なうという、官と民の初めてのコラボレート。ユニークで楽しい企画が目白押しの状態となった。道の日カレー、全県一斉清掃、子供みちもり、みちづくしマップ、道の子供豆本、みちみちクイズ…。熱く、暑く、厚く、篤い夏でした。これからすこし、お休みよ〜つと。(編集委員・中村幸子=道守くまもと会議代表世話人)



「とるば」第1回フォトコンテスト
優秀賞作品【原尻の滝】長吉秀氏



大分県豊後大野市緒方町原尻936-1
道の駅「原尻の滝」から徒歩1分

【この滝は、東洋のナイアガラといわれ、
特に梅雨の時期は水量も多く迫力があります。】



広報誌「道守通信」秋号
平成17年9月30日発行

■発行「道守九州会議」
■事務局（社）九州地方計画協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
●「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>
● e-mailアドレス michimori@michimori.com
定価 300円（消費税を含む）